

(読書ノート) ネルソン/ウィンター『経済変動の進化理論』

経済学はなぜ「進化論」を必要とするか？

高田太久吉(2007/12/10)

正統派理論は多くの局面で誤っているかあるいは不適切である。27

正統派理論の根本的な問題は「経済変動のさまざまな局面の分析」における困難である。

27

不確実性と不均衡調整の問題 31

経済学の教科書は次のような問題に答えていない。

産業の製品に対する需要が増大したら何が起こるか、特定の生産要素の価格が上昇したらどうなるか、といった問題。28

経済学の教科書は、行動の調整は即時的で、市場条件の変化とその結果としての均衡価格は事前に予見可能であると仮定することで、あらかじめ問題を解消している。正統派理論は「成長論は不確実性、一時的な利得や損失、技術進歩の滑らかではない、手探りで進むという性質、そして企業の特性と戦略の多用性、すなわち、資本主義経済の動態の鍵となる性質を捨象してしまう」33

しかし、「現実の企業は市場がいかにかにして落ち着いてゆくかについて不完全な情報に基づいて、予想していなかった市場条件の変化に対して、時間のかかる反応をする」ものである。経済学者は、〈利潤最大化〉仮説にあまりにも強く拘束されているために、一般競争均衡に収斂する不均衡調整のありうべきプロセスのモデル化についてほとんど進歩を実現できていない。31

現実の企業を特徴付けているのは、利潤最大化ではなく、利潤追求ないしは利潤に動機づけられた努力である。……これら二つは、繰り返しがつづく落ち着いた意思決定の文脈のなかではそれほど大きく違わないが、大きな変化が起こるといふ文脈のなかでは大きく異なる。36-37

われわれは「企業が最適化を行う主体であるという（正統派の）見解を明確に拒否する」

45

経済学において「進化論」は何を提供するか？

進化理論では、組織のイノベーションを技術のイノベーションと同様に取り扱うことができる。45

マルクス経済学の多くの部分は進化的理論的である・・・われわれの考えのいくつかはマルクスのそれときわめて整合的である：資本主義的生産組織が動的な進化的理論的システムを規定する；企業規模と利潤の分布もまた進化的理論的システムの議論の中で理解されなければならない。（ただし、われわれのモデルでは、政治権力、矛盾、階級などの概念は役割を果たしていない） 52-53

#### 進化経済学における企業モデル

完全で明確に定義された目的関数をもつことは、現実世界における企業行動の必要条件ではない（企業は明確な目的がなくともやっていくことができる；あるいはむしろ、企業は実際には目的などもっていない 70）。68

#### ルーティンの重要性

ルーティンという概念は、通常はルーティンという言葉では表されないような多くの活動に関連するように拡張することができる 120

ルーティンは、組織全体における反復的なパターンの活動や、個人のスキルを指し示しており・・・121

組織的記憶としてのルーティン：組織における活動のルーティン化が、組織のある特定の業務についての知識のもっとも重要な貯蔵庫となっている・・・組織は、行うことによって記憶している（個人がスキルを実行することによってスキルを記憶しているように） 123

組織がルーティン化された作業を続けるのに必要なことは、単に全てのメンバーが〈自分の仕事を知り〉続けるということである。そのとき、それらの仕事はルーティンによって定義される。124

適切なメッセージを形成し送り出す活動を、われわれは、組織のメンバーによるルーティンの実行とみなす 127

組織の生産作業にとっての核心は、調整である。そして、調整の核心は、自らの仕事を知り、受け取ったメッセージを正しく解釈しそれに対して反応する、個々のメンバーなのである。129

〈活動のルーティン化〉が組織における実行に関わる知識という遺伝子が存在する場所である・・・情報はまず組織のメンバーの記憶に貯蔵される。そこには、明示的、暗黙的にかかわらず全ての知識が存在しており、それらは、彼らの個々のスキルやルーティン、一般的な言語能力と組織内の〈方言〉を操る特殊な能力、そして何よりも、メッセージを特定の行為に結びつける能力を構成している。129

人間の記憶に貯蔵された知識が意味をもち効果的であるのはある特定の文脈においてのみであり、組織的役割において発揮されるような知識にとっては、そのような文脈は組織的な文脈なのである。・・・もっとも重要なことは、個々のメンバーによって所有されている知識の文脈は、他のすべてのメンバーによって所有されている知識によって成り立っているということである 130

われわれの理論的主張の核心：企業の行動はそれらが採用しているルーティンによって説明できる。企業をモデル化するという事はルーティンとそれが時間とともにどのように変化するかということモデル化することである 160

シュンペーターがイノベーションを「新結合を行うこと」と定義したように、組織のルーティンにおけるイノベーションも多くの部分で、既存のルーティンの新結合からなっている。163

遺伝子としてのルーティン

シュンペーター的競争モデルはどのような意味で有効なのか？

シュンペーター的競争の基本的な側面：企業の特質と経験の多様性、および、その多様性と産業構造との累積的な相互作用 35

われわれはネオ・シュンペータリアンであるために、進化理論の理論家である・・・進化理論は、資本主義が継続的な変化のエンジンである、というシュンペーターの見解をより詳しく説明し、理論化するという問題に実行可能なアプローチを提供する。47